

## ■ 概況

4/15～4/21のNYMEX・WTI先物市場は、61.35～63.46ドルの範囲で推移した。

4月22日は、インドにおける新型コロナウイルス感染症の再拡大のニュースが上値を抑えたものの、財政上の理由によるリビアの原油輸出削減の報道で、わずかに反発した。リビア国営石油(NOC)によると、ここ数日、原油出荷が100万b/d程度まで低下している。6月限の終値は前日比0.08ドル高の61.43ドル。

週末23日は、欧米の堅調な経済指標やユーロ高・ドル安の進行に伴う安値感が好感され、続伸した。ただ、インドや日本における感染再拡大と行動制限に伴う経済停滞に対する警戒感は根強かった。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比1基減の343基。6月限の終値は前日比0.71ドル高の62.14ドル。

週明け26日は、リビアの原油輸出に関する不可抗力条項の解除、感染再拡大への警戒感など、需給緩和懸念から、3営業日ぶりに反落した。ただ、市場の関心は、週明けからのOPECプラスの協議に向いている。6月限の終値は0.23ドル安の61.91ドル。

27日は、OPECプラスの段階的な減産緩和の現行方針が維持されるとの報道を好感し、大幅に反発した。OPECプラスは26日専門家会合(JTC)を開催し、2021年の需要見通しを20年比600万b/d増とほぼ据え置いたことから、現行の5月からの段階的減産緩和方針の継続を確認する模様。6月限の終値は前日比1.03ドル高の62.94ドル。

28日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内在庫が原油、ガソリンともに市場予想を下回る積み増

しに止まったこと、また、OPECプラスの合同閣僚監視委員会は、従来からの段階的減産緩和方針を確認したことで、需給改善への期待感が高まり、値上がった。6月限の終値は前日比0.92ドル高の63.86ドル

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、4月15日～21日の間64.00～65.80ドルの範囲で推移した。4月22日62.60ドル、23日63.20ドル、26日62.90ドル、27日63.40ドル、28日64.00ドルと推移した。

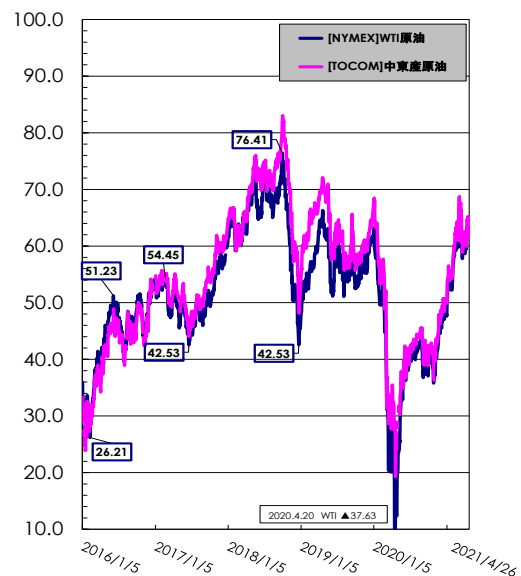
為替は4月15日～21日の間108.08～108.91円の範囲で推移した。4月22日108.05円、23日107.94円、26日107.89円、27日108.16円、28日108.93円で推移した。

財務省が4月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、44,871円/klで、前旬比1,322円高、ドル建て65.47ドルで前旬比1.86ドル高、為替レートは1ドル/108.96円。

そのような中で、4月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週(4月19日)比0.1円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同1円の値上がり(18㍲ベース)だった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油は3週ぶりの値上がり、灯油は22週連続の値上がりだった。この週(4月第4週)の原油コストはわずかに値下がりがしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比据え置きとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/18 ~ 4/24	2,633 ▲38	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.4 ▲1.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/24	10,773 ▼-877	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/26	61.69 ▼-2.26	▲36.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/26	61.91 ▼-1.47	▲49.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月上旬	65.47 ▲1.86	▲23.26
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,871 ▲1,322	▲16,042
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.96 ▼-0.12	▼-0.37
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/26	108.89 ▲0.77	▼-0.29

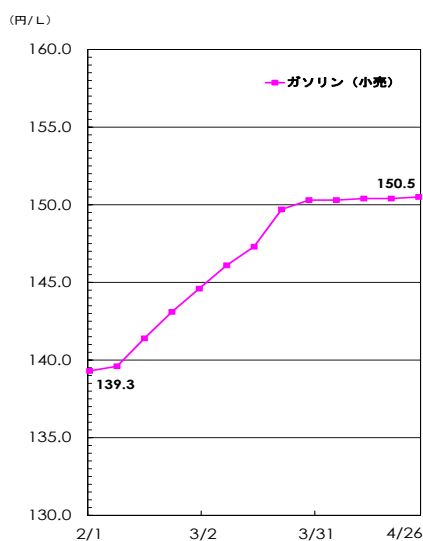
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/18 ~ 4/24	810 ▼ -9 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	761 ▲ 60 ▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -59 ▼ -	
	在庫	4/24	1,895 ▲ 48 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/20 ~ 4/26	59.9 ▲ 1.0 ▲ 29.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/20 ~ 4/26	57.3 ▼ -1.2 ▲ 33.0
		(TOCOM/中部)	4/26	58.1 ▼ -1.3 ▲ 33.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/26	150.5 ▲ 0.1 ▲ 21.5	

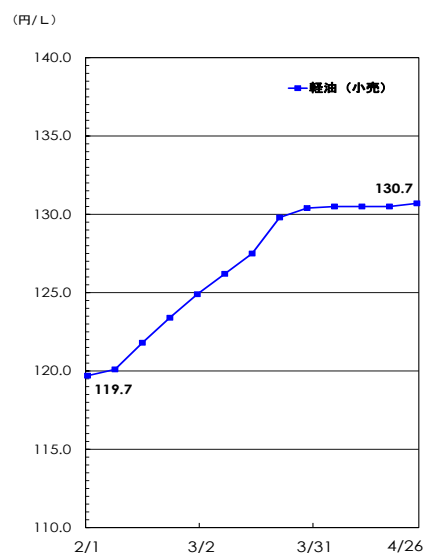
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

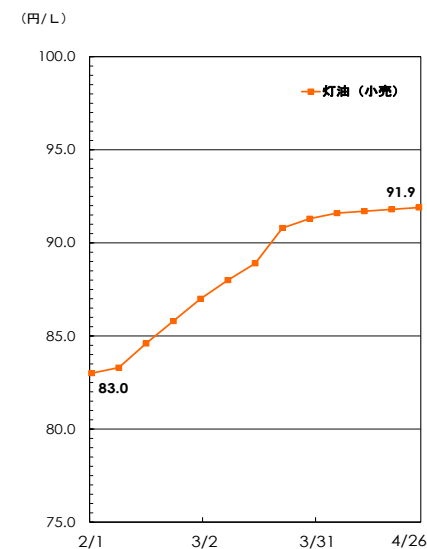
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/18 ~ 4/24	618 ▼ -17 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	585 ▲ 42 ▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -5 ▼ -	
	在庫	4/24	1,638 ▲ 33 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/20 ~ 4/26	61.4 ▲ 0.5 ▲ 27.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/20 ~ 4/26	61.7 ▼ -1.0 ▲ 22.9
		(TOCOM/中部)	4/26	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/26	130.7 ▲ 0.2 ▲ 20.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/18 ~ 4/24	153 ▲ 12 ▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.	
	出荷	"	197 ▲ 52 ▼ -	
	輸出	"	0 → 0 → -	
	在庫	4/24	1,417 ▼ -45 ▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/20 ~ 4/26	60.9 ▲ 0.6 ▲ 27.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/20 ~ 4/26	55.9 ▼ -0.7 ▲ 27.8
		(TOCOM/中部)	4/26	58.1 ▼ -1.4 ▲ 25.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/26	91.9 ▲ 0.1 ▲ 12.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月28日のNYMEXのWTI先物原油は、続伸した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫が前週末比10万バレル増と市場予想(同70万バレル増)を大きく下回る積み増し、同様に、ガソリン在庫も同10万バレル増と市場予想(同50万バレル増)を下回ったこと、また、OPECプラスは、27日合同閣僚監視委員会(JMMC)をWEB開催し、前回委員会(4月1日)で決めた5月以降の段階的減産緩和方針を維持することを決めた。これらの報道を受け、需給改善への期待感から、値上がった。ただ、インド等における新型コロナの感染再拡大の懸念は、引き続き、上値

を抑えている。6月限の終値は前日比0.92ドル高の63.86ドル、7月限の終値は同0.95ドル高の63.75ドル。

EIAによると、4月19日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.7セント値上がりの1ガロン2.872ドル(82.5円/ガロン)、ディーゼルは同横ばいの3.124ドル(89.8円/ガロン)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは5週ぶりに値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年4月18日～4月24日に休止したトッパー能力は72.6万バレル/日で、前週に対して16.1万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は263.3万klと、前週に比べ3.8万kl増加。前年に対しては11.0万klの減少。トッパー稼働率は68.4%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては1.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.0%減、ジェット/13.0%減、灯油/8.2%増、軽油/2.7%減、A重油/4.9%減、C重油/4.1%増。今週のC重油の輸入は0.9万kl(前週比0.9万kl増)。軽油の輸出は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でC重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は76.1万kl(対前週8.5%増)と2週振りで増加した。ジェット8.7万kl(対前週27.5%増)、灯油19.7万kl(対前週36.4%増)、軽油58.5万kl(対前週7.8%増)、A重油19.9万kl(対前週34.2%増)、C重油16.2万kl(対前週8.9%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/18 ~ 4/24)	前週 (4/11 ~ 4/17)	前週比	
ガソリン	761	701	▲ 60	(9%)
ジェット燃料	87	68	▲ 19	(28%)
灯油	197	145	▲ 52	(36%)
軽油	585	543	▲ 42	(8%)
A重油	199	148	▲ 51	(34%)
C重油	162	178	▼ -16	(-9%)
合計	1,991	1,783	▲ 208	(12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月24日時点の在庫は、ガソリン、軽油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは189.5万kl、前週差4.8万kl増。前年に対しては10.5万kl少ない。

灯油は141.7万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

軽油は163.8万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては21.9万kl多い。

A重油は75.0万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては3.0万kl多い。

C重油は190.4万kl、前週差3.7万kl増。前年に対しては2.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/24)	前週 (4/17)	前週比	
ガソリン	1,895	1,847	▲ 48	(3%)
ジェット燃料	802	803	▼ -1	(-0%)
灯油	1,417	1,462	▼ -45	(-3%)
軽油	1,638	1,605	▲ 33	(2%)
A重油	750	774	▼ -24	(-3%)
C重油	1,904	1,867	▲ 37	(2%)
合計	8,406	8,358	▲ 48	(0.6%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月20日～26日の指標原油価格は前週(4月13日～4月19日)比でほぼ横ばい、為替レートのわずかな円高で、円建ての原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

次週(4/29～5/12)の大手元売卸価格は、4月分の産油国国営石油会社の調整金のわずかな値上りを反映して、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比横ばいとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月20日～26日の製品スポット市況は、4月13日～19日平均と比べ、3品の先物取引と灯油の海上取引は値下がりしたが、その他の取引は値上がりした。

直近(4/20～4/26)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。直近週(4/20～4/26)において、ガソリンは113円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油は60～61円台で値上がり、軽油は60～61円台で値上がりで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/20～4/26)に、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.3円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(4/20～4/26)に、ガソリンは113～114円台で値上がり後横ばい、灯油は57～58円台で大きく値下がり後横ばい、軽油は62円台で値上がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.2円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。先物価格は、同期間(4/20～4/26)に、ガソリン109～114円台で大きく値下がり、灯油55～57円台で大きく値下がり、軽油61～62円台で値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/20～4/26)	前週 (4/13～4/19)	前週比
	レギュラー	59.9	58.9
灯油	60.9	60.3	▲ 0.6
軽油	61.4	60.9	▲ 0.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (4/20～4/26)	前週 (4/13～4/19)	前週比
	レギュラー	57.3	58.5
灯油	55.9	56.6	▼ -0.7
軽油	61.7	62.7	▼ -1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/20～4/26実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.0	▼ -1.2	▼ -0.1
灯油	▲ 0.6	▼ -0.7	▼ -0.1
軽油	▲ 0.5	▼ -1.0	▼ -0.2
A重油	▲ 0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

4月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(4月19日)比0.1円高の150.5円、軽油も同0.2円高の130.7円、灯油は18%ペースで同1円高の1,654円(1%ペースでは同0.1円高の91.9円)。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油は3週ぶりの値上がり、灯油は22週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは28府県、横ばいは5県、値下がり14都道県だった。全国最安値は143.6円の徳島県(前週比1.2円安)、その次に安かったのは144.6円の宮城県(同0.2円安)、他方、最高値は159.1円の鹿児島県(同0.1円高)だった。最も値上がりしたのは同1.3円

高の石川県(150.6円)で、横ばいは高知県など5県、最も値下がりしたのは同1.2円安の徳島県(143.6円)だった。

今週(4月20日～26日)は、指標原油価格はほぼ横ばい、為替レートのわずかに円高で、円建ての原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。次週(4月29日～5月12日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。次回調査時(5月10日)のガソリンの小売価格は横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/26)	前週 (4/19)	前週比	直近高値
レギュラー	150.5	150.4	▲ 0.1	08/8/4 185.1
灯油	91.9	91.8	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	130.7	130.5	▲ 0.2	08/8/4 167.4

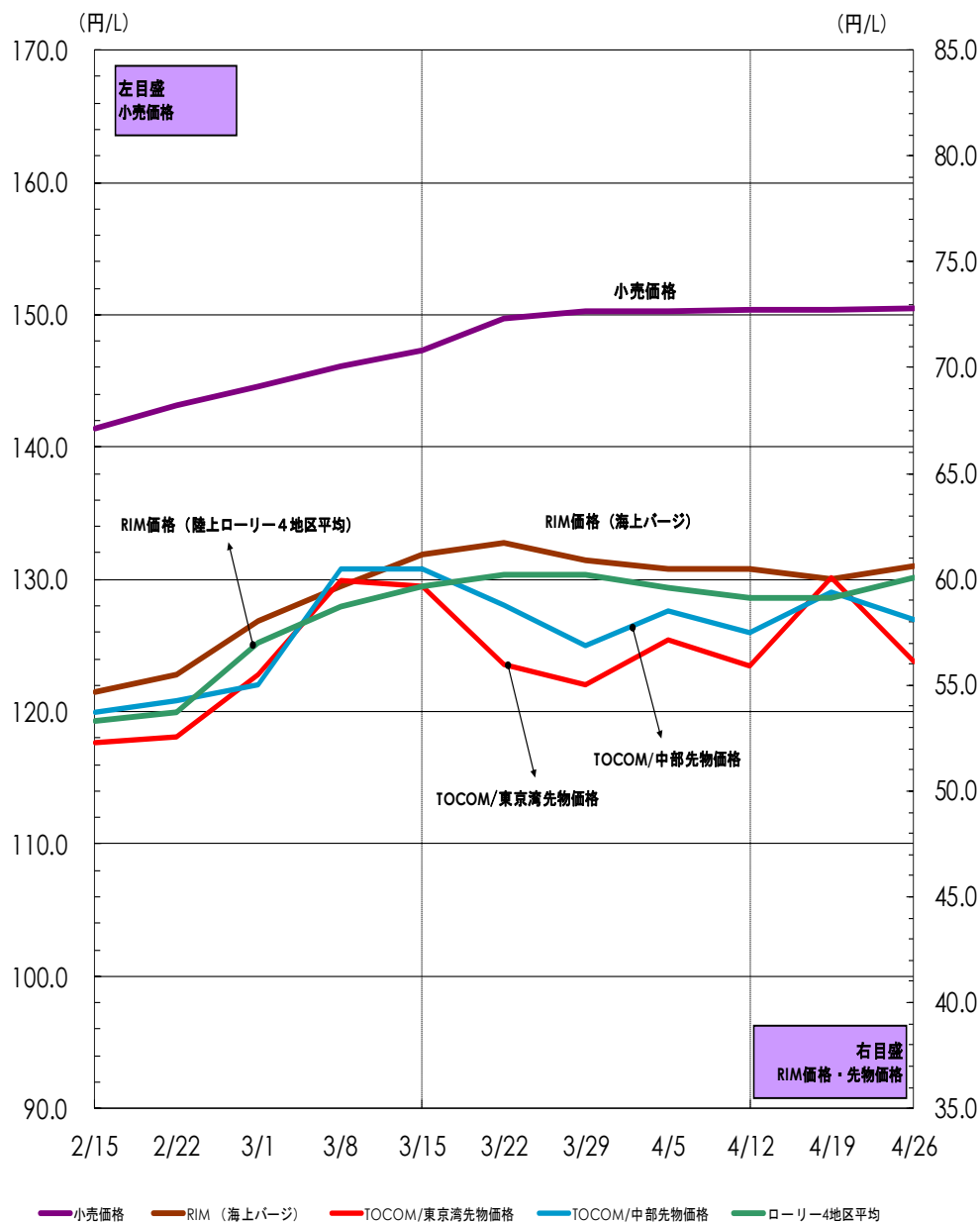
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/2/15 ~ 2021/4/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2021第6号)の公表は、5/14(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。